

特集

「保健・医療・福祉を担う人材育成－いま求められる人材像－」によせて

学部長 佐藤 秀紀

少子高齢社会、情報化社会、高度医療・在宅医療の進展など激変する社会にあつて、保健・医療・福祉の充実が急務となっています。近年のわが国においても、保健・医療・福祉をめぐる諸問題は大きい注目される分野であり、制度や施策の変遷も急速です。この分野を現場で支えようとする専門職の力、「現場力」への期待は高まるばかりです。

そこで、今回のシンポジウムでは、現場で働いている方々、現場の責任者の方々、本学の教員がそろって「保健・医療・福祉を担う人材育成について」考える企画を用意しました。現場に求められる専門職の力とは何か、現場力を養うためにどのように教育すべきなのか、大学で学ぶことと現場で身につけることとはそれぞれ何なのか、学内外の方々と一緒に考えてみるにはよい機会と考えました。

現状と課題を提出してくださった方々は次の通りです。石鍋圭子氏（青森県立保健大学看護学科教授）からは「青森県立保健大学がめざす人材育成の課題」について論じていただきました。内容は、学部教育および大学院、教育センターでの教育・研修の実際から本学が取り組んでいる人材育成の実際をお話いただきました。卒業後も社会の変化に対応し、社会の変革に参画できるような高度な専門職業人として成長できる能力をもつことが重要である。とのご提言でした。

船木悦子氏（むつ総合病院看護局長）からは「いま保健・医療・福祉に求められる人材 - 地域医療連携の経験から -」について論じていただきました。地域医療連携の経験から、①特に地域連携に価値をおけるマネジメント力、変化に対応できるリーダーシップが重要である。②包括ケアシステムにおいては、保健医療福祉の仕組みに精通した知識と、高い人間性をもった人材育成が必要である。③教育機関で基礎的・看護の心と良識をもった人間性を、現場では実践によるスキルアップと人間としての成長を、相互でフィードバックしながら進むことが望まれる。とのご提言でした。

福田道隆氏（財団法人黎明郷理事長）からは「いま地域リハビリテーション活動で求めている人材とは」について論じていただきました。具体的には、地域リハビリ

活動で求めている人材像についてお話いただきました。基本的事項として、①医療従事者の基本的なマナー、②専門性の必要条件、③チームワークの必要条件、④リーダーとしての役割と活動の4項目を挙げられています。また、⑤バランスコアカードによる総合的質管理への関心度と実践度へのかかわりを深く持つ必要がある。とのご提言でした。

田中弘子氏（県ソーシャルワーカー協会会長）からは「出会う つながる 動き出す - 関係づくりを編みなおしていくために -」について論じていただきました。保健医療福祉を担う人材育成は、成熟した市民社会・住民から公をつくるという新しい公共という仕組みづくりに向かっていくコーディネーターを育てることが必要である。とのご提言でした。

また、指定発言者（情報提供）として、工藤元氏（青森県健康福祉部副参事）にお願いしました。青森県では地域保健医療計画にも、保健医療を担う人材の養成確保と資質の向上が示されています。工藤氏には「保健医療を担う人材の確保」についてお話をしていただきました。

このように、石鍋氏からは「養成機関の取り組み」について、船木氏からは「医療機関における取り組み」について、福田氏からは「雇用者としての考え」について、田中氏からは「サービス提供者として求められること」について、工藤氏からは「保健医療を担う人材の確保」について、それぞれの立場からのご発言、問題提起をいただき、討論を深めていくことができました。

本シンポジウムでの討論をまとめますと、①「仕事に対する積極的な（前向きな）意欲・責任感」が最低限必要な条件であり、その必要条件をクリアすれば、「業務に関する知識や技術能力の保有」などの十分条件を満たす人材が求められることになる。②したがって、まずは働くことに関しての意識づけが求められることになる。その上で他者と良好な人間関係を築ける協調性や、そのために不可欠なコミュニケーション能力などが求められる。

③養成校に対しては、標準的な業務知識を持った人材を育成するのみならず、様々な技術や業務知識などを学ぶための人材の育成を期待しているといえる。その能力さえ身につけてもらえば、あとは各現場において十分対

応が可能である。④正職員として雇用することは、一人前の戦力として育つまでに時間がかかるが、その途中での離職率が高いこと（その結果として人材育成に費やした努力が無駄になってしまう）が問題である。

以上のような状況を勘案すると、現場は知識・技能が高いことよりも、就労意欲が高く責任感があり、安定した戦力となりえる人材を求めていると考えられます。

約2時間に渡りまして、多くのみなさんにお集まりいただき、ひとつの場で議論ができたことを、非常に有意義であったと考えます。また、この企画を通して、参加者の日常的なネットワークが形成されることも期待したいと思います。

最後になりましたがお忙しいなか、シンポジスト、指定発言者としてのご参加および本原稿をご執筆くださった皆様に深く感謝いたします。